

特集 SPECIAL FEATURE

RIDAI-DESIGN ~がんばる理大デザイン~

世間での理科大建築学科・卒業生の評判は、けっして悪くありません。「優秀、研究熱心、真面目・・・等々」。いや、上々といったところでしょうか。しかし、「真面目な分、デザインはあまり面白くない」などという声もあるのです。これは大きな誤解！ 理科大出身者にも、優秀な建築家はたくさんいます。そこで建築設計・デザインの方面で活躍されている方々に登場をお願いしました。さらにゲストとして、理工学部のOBの方にも登場していただきました。

デザイン・ソリューション

石橋 利彦(I部5期)

石橋徳川建築設計所

建築で日常的に使われているデザインという表現は柔らかな印象を抱かせるものであり、これまでは表層的な色柄形を扱う意匠の一部を示す場合が多かったの



千葉大学創造工学センター

ではないでしょうか。それが現在では意匠のみならず、構造や設備の領域においてもデザインという表現が使われる機会が増えてきました。デザインという言葉自体、図案や下絵といった意味だけでなく構想や計画といった意味をも含むものに変化してきたようです。言い換えれば、建築のすべての分野において構想や計画が明確に求められる要素となったことでデザインという言葉が広範囲に使われるようになったといえるでしょう。従来のように意匠だけが先行し、後から構造や設備がその中を埋めていく業務フローでは建築的な品質を高めることに限界があります。それぞれの分野において最大能力を発揮して建築を構築するための基本姿勢として、コンセプトの具現化に向け意匠デザイン、構造デザイン、設備デザインがベクトルを合わせて設計されなければならないのです。

こうした方向性が際立ってきた背景としては、コンピュータによるコラボレーションがあります。図面がデジタル化されたことで、意匠図、構造図、設備図の作成が同時進行できる環境が整いました。そのため、構想段階にあっては構想についてそれぞれが提案し、計画段階ならば計画についても提案をするというコラボレーションが重ねて行えるようになったのです。設

築理会からのお知らせ

今号の予算案・決算報告書にもあるように、会費を納入して頂いている会員は全会員の1割程度となっています。言い換えればこの1割の皆様が会費で会の運営がなされています。

昨年度までは住所が判明している会員の方には年2回会報をお送りしていましたが、今年度は会費未納の会員の方には今号のみの送付となることをあらかじめご承知おき下さい。同封されている振込用紙をご利用の上、今年度の会費納入を宜しくお願いいたします。
(企画総務委員会)

平成 15 年 築理会**総会・懇親会のお知らせ**

今年の築理会総会・懇親会を下記の予定で開催します。なつかしい顔に再会できるかも・・・
皆様お誘い合わせの上奮ってご参加下さい。

日時：5月10日(土)

総会：17:30~18:00

懇親会：18:00~20:00

場所：理窓会館 2階会議室

会費：4,000円

計に携わるすべての人がフラットに発想を求められ、結果として建築が洗練されていきます。

意匠・構造・設備がバラバラにできるということは、重複した無駄な作業が削減できるので、設計期間が大幅に短縮できます。写真の建築は千葉大学創造工学センターで、1,600㎡の施設の基本設計から実施設計、積算までを1ヶ月で完了しました。学科の隔たりを無くし、創造性を育むための共有空間として、アナログアトリエ、デジタルアトリエ、さらに未知の研究プロジェクトを推進するための共同研究室を備えています。多様性に対応可能なフレキシビリティの追求と創造エリアと研究エリアの明確な分線をプログラムして構築したものです。

あきらめずにがんばって

椎橋 隆(1部14期)
(株)スタジオキューブ

大学を卒業してから、4年間イタリアの設計事務所にて勤務し帰国、現在は日本で設計事務所とデザイン会社を同時に設立して15年がたちました。イタリアでの仕事の影響が強かったのか、我々の会社では建築・インテリアの仕事が中心ですがそれらに関連したいろいろな分野の仕事もします。簡単に説明しますと家具、テキスタイル、グラフィック、サイン、インダストリアル等のデザインです。最近の変わった種類の仕事では立川、有楽町、大阪・難波のビックカメラのサインデザインや、あるサッカー選手本人だけの特注の腕時計のデザイン等です。

理科大で2年生の設計計画の講師をするようになって4年が経ちます。「工学部の建築学科では優秀な建築家が育たない」と聞きますが、2年生の段階では優秀な生徒が多く、センスがあり才能豊かな学生に毎年何人もお逢いします。ただ2年生の一年間に、4課題



「椎橋氏デザインの腕時計・・・Nモデル (Nは某有名サッカー選手)」



は多すぎて少々消化不良になってしまっているようです。学生が課題をこなすのにやっとの状態で、建築設計の醍醐味を知る余裕もなく、息切れ気味の生徒が多くそのまま3年生になり、同じようなカリキュラムが続き4年生の最近の卒業設計を採点する時には、「これがあの生徒の作品か」とがっかりすることが多く、もう設計に興味を失ってしまったような作品が多いですね。わずか2年間の間に才能を蝕んでしまうなにかがあるのでしょうか、理解に苦しみます。

もちろん、学生側にも問題はあると思いますが、大学側のカリキュラムにも問題点はあるような気がします。

日本の学生は海外に比べるとおとなしく、物事を主張したり会話が苦手なようで覇気は感じません。今、フィレンツェ大の建築学部でも教鞭を執っていますが、彼らは言葉で建築をデザインしているようなところがあり、自分の作品をプレゼンするときは自信满满です(作品の内容は別ですが)。今後、海外での仕事も増えていくと思いますので、しっかり自分自身を主張することを覚えた方が良いと思います。特に近年、中国を中心にアジア全体で仕事の機会が増えていますので、学生時代からグローバルな視点を持って準備をしていくと仕事の幅も広がってゆくのではないのでしょうか。

優秀な後輩がまっすぐに育って行ってほしいですね。

風景の再構築

広谷 純弘(1部15期)
建築研究所アーキヴィジョン

富山県大山町は、その95パーセント以上を森林が占める森の町です。一昨年この町に新しいコミュニティセンターが完成しました。木造平屋建・約600㎡の建築です。

初めてこの敷地を訪れたとき、美しい山と川、そしてその間に広がる水田の織りなす風景が心を和ませて



くれました。それもつかの間、道を進むと新築された農家は人工建材のカatalogのよう、バス停もゴミ置場も既製品の間合わせのようです。しかしこれはこの町だけの風景ではありません。日本のほとんどの郊外の姿です。困ったことに風景の質が標準化してきているのです。その土地にはその土地の歴史があり、文化があり、そして風景があるべきです。個性ある風景を再構築する必要があると思いました。私がイメージしたのは、川から山へと延びる何枚かの壁のある風景です。都市化の波が押し寄せている以上、昔ながらの風景に固執していても必ず破綻をきたすと思います。この壁は建築の様式を意識させずに、風景にインパクトを与えようと考えたのです。同時に壁の仕上がりを町の主産物である杉の板張りとし、時間と共に変化し周囲の環境と連続していくことを意図しました。

大山町は、この建築の完成を機に「木と出会えるまちづくり」を町の10年計画に定め、委員会を組織し、私もその委員として計画の策定と実施に関わることになりました。遊歩道、農業倉庫、バス停の待合、ゴミ置場、街角のサイン、ベンチ、公園の遊具、さらには幼稚園や小学校の机・椅子にいたるまで、木を生かしたデザインで整備してゆこうとしています。ここで特筆すべきはそのデザインの質に対する議論です。木という材料に対し、優しさとか温かさというような情緒的な感覚に縛られることで、ある野暮ったさを良しとすることの無いようにと検討され、ゴミ置場とサイ



大山町福沢地区コミュニティセンター

ンが実現されました。そして木を生かした施設と道具に対し、ボランティアのバトロールによる傷みのチェックと修復のメンテナンスサポートも提案されています。この町の動きは、いわゆる町おこし・・・直接的な経済的効果を目的とした・・・ではありません。しかし日常生活の中にあるデザインが、人々の心に風景の大切さに対する意識を芽生えさせることが出来れば、きっと将来、様々に展開できる大切な財産・・・個性ある風景・・・を構築できると考えています。

「大山町福沢地区コミュニティセンター」受賞経歴

- ・平成13年度 日本建築学会 北陸建築文化賞
- ・平成14年度 中部建築賞
- ・平成14年度 グッドデザイン賞
- ・平成14年度 JCD デザイン賞 文化・公共施設部門
- ・平成14年度 SDA 賞(優秀なサイン計画に対して送られる賞)

インテリアデザイン

松村 陽子 (I部26期)

松村陽子建築設計事務所

一昨年、昨年と秋のデザイナーズウィークの家具展に出展する機会を頂きました。設計事務所を離れて一人になった所、家のインテリア・改装の相談が多く、家具やインテリアについて考えておきたいと感じていた矢先のお話でしたので良い機会になりました。

考え始めていくと確かにインテリアとはインナーデザインであって個人の精神性とダイレクトに深く関わってくるところが建築と違う所でもあり困惑する所でもあります。インテリアデザイナーという職能を改めて実感致しました。今回の様に自分の持っている一連の動作やそれらにまつわる感受性を分析して選んで表現する事は、個人的だという点が面白い所です。し





[2001年 ZIZI]

かも要素は建築と同じなのですよね。

一昨年の家具展では置きたい椅子のイメージをジジにしました。いつも私の膝の上でぬくぬくしているジジという名前の犬です。それと犬をのせている時の重さ。そこで屋外にも持ち出せて散歩の後ちょっと座れる様なモノ。木のリボンを連ねて重量感をつくり寸法が軽軽軽にならないこと。犬が地面を蹴って浮いた瞬間の愛嬌のある滑稽さというところでこのカタチに落ち着きました。

昨年は実験家具がテーマでしたのでカタチからのメッセージを極力単純にして表面装飾がどこまでモノ



[2002年 カザリエ]

を使わせるかをテーマにしました。薄皮一枚の表皮にも強いメッセージ性があります。まず使い慣れた3つの寸法でコの字を構成し、このカタチの表面に表になる柄を施すことで使う側が楽しく悩むわけです。これは2つセットなので組み合わせも楽しめです。実際の柄は江戸唐紙のシュランを拝借アレンジしました。和風だとみる人もローラアシュレイの様だという人も様々で褒められたベージュと相まってねらい通りのオカシナ家具に仕上がりました。

理工学部のデザイン教育と若手OBの台頭

高安 重一(理工学部：平成元年卒)

建築研究室高安重一事務所

自己紹介として、私の仕事の写真をいくつか用意しました。90年から助手および非常勤講師として理工学部にお世話になっていきますので、最近の計画・意匠系に限られるのですが、理工学部の近況をお伝えしたいと思います。

私がお手伝いしているのは1年生の授業で、C+Aも率いる専任の小嶋一浩助教授の「空間デザイン演習」という授業です。これは、いままで必ず建築教育の導入で行っていた「図学」をやめてしまったという点に、



川口交差住居
平成14年度 東京建築賞 受賞



人と自然そして建設が共にある未来へ。グランドデザイナー、カジマ。

in 鹿島
東京都港区元赤坂1-2-7 〒107-8388
<http://www.kajima.co.jp/>



HOUSE<板橋-K>

大きな特徴があります。「CADの普及などで作図法としてのパースなどを訓練しなくても、いいのではないか？平面や立面の描き方の訓練をいかなり始めるよりは、建築は3次元の空間なのだから、初めから3次元を相手にしていこう！」というような始まりだったと思います。とにかく模型を作ったのぞきながら考えよう、手を動かそうとしています。

課題を具体的に挙げると、一つは「光だけで空間を作ってみよう！」という課題。ダンボール箱を用意してもらいます。そこに「のぞき穴」を開け、中をのぞく。真っ暗ですが、この箱に穴を開けると一筋の光が射し込み始めます。「これが空間の始まり」ということで、光の操作だけで空間を展開させていきます。一年生前期ですが「これがダンボールか？」と言うほどの空間が出現しています。これは小嶋研のHPのコーナーでご覧頂けます。

http://www.rs.nodasut.ac.jp/koji_lab/SD/danboi.html

次は「自分の部屋を空間化しよう！」という課題です。前期は模型、後期は実物を相手にしようという訳です。学生の住む部屋は必ずしも「良い空間」とは限らない(私達も?)。むしろほとんど全員が「良い空間にしよう」という意志が感じられない空間に住んでいる(借りている)のです。これを何とかするべく、実際に施工してもらいます。とは言っても、賃貸のアパートもありますから、仮設的な作りになります。材料もダンボールをはじめ、紙や布、サランラップからアルミホイール、中には風船を使って・・・と、およそ建築っぽくない材料も登場します。しかし仕上がりは決して

ブアでなく、ある質を備えた空間を目指しています。とにかく模型にしてみる・・・ということで始めたので、「模型がないと考えられない!」というような学生もいるのではないかと少し心配になったりもします(笑)。しかし確実に、億劫がらずに模型でスタディしているように見えます。

私の担当授業以外の状況では、この10年近く、建築家教育とでも言うべき、体制を整えていると言えます。専任のC+Aの小嶋一浩助教授をはじめ、若手の生きの良い建築家がかわるかわる非常勤でいらしています。かつては、敬称略で長谷川逸子、妹島和世、青木淳、塚本由晴、トム・ヘネガン、キャサリン・フィンドレイ、山本理顕、千葉学、宮本佳明・・・。現在では高橋晶子、クライン・ダイサム・アーキテツのマーク・ダイサム、西沢大良、小池ひろの、吉村靖孝・・・などがいらっしゃいます。

もちろん、理科大出身の方も活発に教えられていて、遠藤政樹、田辺芳生、石橋利彦、杉浦伝宗、高橋堅などの面々です。高橋さんは青木淳さんの事務所から独立された若手なのですが、最近の理工出身では、小川晋一さんから独立した、ミニマルな作風の三分一博史、竹中工務店で頭角を現す宮下信顕、伊東豊雄さんから独立した塚田修太・・・など、期待の若手として雑誌で名前を拝見することが多くなっています。



HOUSE<練馬-H>



人がつくる、人の場所。

そこには落ち着ける空間があります。
そこには快適な環境があります。
そして、そこには豊かな時間が流れています。
大切なのは人の息吹が感じられる場所であること。
私たちはこれからも想いを込めてつくり続けます。

SHIMZ CORPORATION
清水建設
<http://www.shimz.co.jp/>

新企画 事務所へGO! (第1回)

「現場へGO!」に続くOBへの押しかけ企画第2弾「事務所へGO!」。現在活躍している理科大OBの設計事務所の今を紹介します。第1回は海野健三氏（1部1974年卒）が率いる海建築家工房。会報委員会のニューフェイス、東有紀が訪ねました。

素人にもセルフビルドできる

事務所があるのは東京都江東区の扇橋。小さい金物屋さんがあったりしてちょっと下町風だ。3階建ての事務所の入り口には鉄筋に石が刺さった風変わりなオブジェ（これは後で海野さんが作った手作り楽器だったことが判明）が並んでいたり、木の切り株が置いてあったりと、不思議なものであふれていて、設計事務所というより芸術家のアトリエっぽい。突然の訪問にもかかわらず海野さんは気さくに付き合ってくれた。

「ゼロからのものづくりをしたかった」という海野さんは、大学卒業後は設計事務所へ勤めたが、図面を描くだけで建物のつくりかたが分からず、その後建設会社へ入社して現場にも携わったという。しかし、つくりかたは分からないまま。結局、最後に選んだのは実際にものづくりができる大工の丁稚になることだった。カンナかけから始め、木造を一棟完成させてやっと感触をつかんだ海野さんは、現在の設計事務所を設立した。「図面だけ描いていた頃は暗黙のルールがある気がしていたけど、実際につくってみればどうすればいいのかちゃんと分かる」という。

そんな海野さんの設計事務所では、できるだけ設計だけでなく施工も手掛けるようにしている。今はひとつの建物を建てるにしても分業化が進みすぎて、何か問題が起きると責任のなすりつけあいになってしまう。海野さんは施工も自分ですることでメンテナンスを含めてすべてに責任を持っている。「私は施工までしているから失敗しても自分で直しに行く」という海野さん、にものをつくるってそういうことなんだと改めて気づかせてもらった。

海建築家工房ではセルフビルドが理念の一つになっている。URCというちょっと変わったRCの工法も開発した。これはコンクリート型枠の代わりにネットを使った方法だ。ネットの張り方によって自由に膨らみをつくれるし、中が見えるので充てんの状態も一目で分かる。そのうえ、軽くて丸められるので搬入が簡単だ。ネットのつくる連続曲面はクッションのような柔らかさを



上：コンクリート団子の施工の様子
左：URC工法の壁面

もっている。

ほかにも、URC工法の進化形といえる「だんごハウス」も完成した。今度は手で丸めたコンクリート団子を積み重ねるといった究極のローテクだ。素人でも施工できるので、建て主も手袋をつけてコンクリート団子づくりに参加している。

次々に新しい工法を作り出す海野さんに「どうやってこんな面白いアイデアを思いつくんですか？」と尋ねると、「別に専門家じゃないからかな！」と答えてくれた。「時代に頼りたくない」と言う海野さん。今の技術でしかつくれないものは嫌だという。実際に事務所の二階には様々な種類の工具がそろった道具部屋があって、たいいていものはそこでつくれるという。

海野さんの今の趣味はバックホーを動かすこと。郊外の土地で土を掘ったりするのが楽しいという。こうやって何気なく興味を持った楽しみの中から、また奇想天外なアイデアを思いつくのもかもしれない。



お気に入りの道具部屋

海建築家工房URL

<http://www.ne.jp/asahi/umi/ee/>



人がいきいきとする環境を創造する

大成建設株式会社

<http://www.taisei.co.jp/>

連載 研究室紹介 (第7回)

研究室紹介、第7回目です。日常大学から疎遠になりがちなおOBの方々に理科大の今を知ってもらうため、現在どんな研究をしているのか等、研究室内から記事を寄せて頂くコーナーです。

今回は伊藤研です。どうぞお楽しみ下さい。

伊藤研究室紹介

はじめに

伊藤研究室は、7号館5階にある第一部門・建築歴史担当の研究室です。7号館5階には、他に鈴木研究室、第1製図室、大岩先生がいらっしゃる製図準備室があります。研究室は1995年に設立され、2002年度で8年目にまいりました。学生数もようやく100名を超えたところです。

担当の伊藤裕久助教は都市史、建築史、保存再生計画が専門です。都市史とは、都市の空間構成及び都市構造における歴史の変遷についての調査研究です。今日の都市は幾重にもわたる都市空間の上に成立しています。都市の形成プロセスを解明することから、今日の都市があるべき姿を見いだすことができると考えています。

現在の体制

現在研究室には、先生、補手、大学院生9名、学部生21名と総勢32名が在籍しており、かなりの大所帯です。部屋には院生以上には席が、卒研生には各自の棚と共通の大きなテーブルがありますが、現在の人数でいっぱいの状況です。

研究では多くの都市図や建築図面を作成するため、パソコンが欠かせません。パソコン環境は年々充実してきています。デスクトップ型のPCが「mac」を中心にあり、ノートPCが「macwin」共各2台備えられています。これまでの学生は「mac」ユーザーが中心でしたが、最近では「win」ユーザーが増えている傾向です。

また今年度マルチプロジェクターという、PCはもちろんのこと書画カメラの機能も兼ねた最新式のプロジェクターを購入し、論文発表会や授業に活躍させています。

研究テーマ

伊藤研究室では、日本及びアジアを対象地に、都市史・建築史としての研究視角をもった調査研究をおこなっています。最近の研究テーマを紹介します。

1.江戸・東京の都市・建築空間構成に関する研究

- ・荒川区を中心とした大都市周縁部における居住環境形成過程の総合的解明を目指しています。

- ・東京の様々な地域の祭礼調査をおこない、東京における近代化と祭礼空間の変容との関係性について研究しています。

- ・江東区、中央区、芝浦・品川地域を対象として近代埋立地の居住環境形成過程について調査研究をおこなっています。

2.東アジアの居住環境に関する研究

- ・これまで韓国・中国実測調査を実施しており、それぞれの住居・住居集合の構成原理について解明しています。

3.建築史に関する研究

- ・山梨県を対象として、宮大工史料の分析や建築遺構の実測調査を基に、近世社寺建築の調査研究をおこなっています。

- ・その他、学習院キャンパスなど歴史的建造物に関する復元的な調査研究をおこなっています。

最近では保存再生計画をテーマに、卒業論文で研究した対象に、継続して卒業制作で取り組むという事例も増えています。研究成果は、学内の発表会の他、日本建築学会・都市計画学会でも発表しています。

研究室の様子

研究は、卒研ゼミ、社会人対象の卒研ゼミ、大学院ゼミが週各1回ずつ開かれ、進められます。卒研ゼミには大学院生も参加します。伊藤先生は、研究内容について学生の自主性を尊重されており、毎年テーマは広範囲にわたりますが、各自に端的な指摘と助言が与えられ、それに基づいて研究が進んでいきます。

大学院ゼミでは、後期は修士論文に取り組みますが、前期は学会論文の分析、海外の参考図書館の読書会、東京の各所を調べ、実際にサーベイする等様々な勉強会をおこなっています。1999年度以降のサーベイした成果は、学生が自主的に作成した『東京へ行く』という冊子としてまとめられています。

また伊藤研究室では、実測調査をはじめ様々な調査があり、大規模なものは全員参加で取り組みます。炎天下の作業など大変なこともある半面、聞き取り調査先でごちそうになるというありがたい例もあり、貴重な体験をしています。年に一度のゼミ旅行では、OBの方々も参加され、各地の街並を訪ね歩きます。

おわりに

HP(<http://itlab.ar.kagu.sut.ac.jp>)には卒業生のコーナーもありますので、研究室を問わずOBの皆様のご意見ご感想をお待ちしています。また研究室へのご訪問も歓迎します。

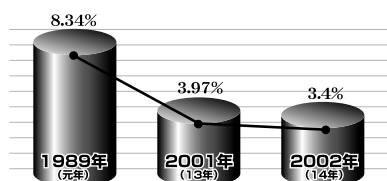
(2002,1,27 補手：杉山経子)

データに裏付けされた確かな「実績」こそが真の「実力者」を生む!

平成14年度 1級建築士

全国受験者の

学科・設計製図ストレート合格者 **3.4%**



超難関資格を
日建学院が
強力にサポート!

教育訓練給付金制度指定講座有

案内書無料進呈

※支給条件がありますので、必ず最寄りの日建学院へお問い合わせ下さい。

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-21-16日建学院ビル7F



0120-243-229

URL <http://www.ksknet.co.jp/nikken/>

E-mail nikken@ksknet.coi.jp

全国130校・650常備教室建築関連資格教育のパイオニア

日建学院 株式会社 **建築資料研究社**

インフォメーション

■平成14年築理會活動報告

昨年各委員会の活動概要を報告いたします。

- ・総会・懇親会の開催(5月)
- ・築理會会報の発行(3月、9月)
- ・築理會名簿の発行(4月)
- ・幹事会・常任幹事会の開催(1、4、7、10月)

■平成14年決算報告・平成15年予算案

昨年度の決算および今年度の予算案につきまして、下記のように立案いたしました。来る総会にて会員皆様のご承認を頂きたい、お知らせいたします。ぜひ総会にご出席頂きますようお願いいたします。会報ならびに名簿による広告収入もありますが、築理會費が総収入の90%を占めています。活動の趣旨をご理解の上、会費納入をよろしくお願ひいたします。

(企画総務委員長=坂下誠,II部2期)

平成14年築理會決算報告

収 入		支 出	
平成13年度繰越金	1,032,317	会報(2回)	1,243,162
築理會年会費	1,284,500	名簿	688,747
築理會終身会費	450,000	HP維持費	48,200
総会・懇親会	94,000	総会・懇親会	121,900
広告収入	184,560	事務費	86,310
		運営費	91,443
その他	9,004	通信費	45,020
銀行利息	54	繰越金	729,653
合 計	3,054,435	合 計	3,054,435

平成15年築理會予算案

収 入		支 出	
平成14年度繰越金	729,653	会報(2回)	850,000
築理會会費	1,605,000	名簿	130,000
広告	300,000	事業支出	100,000
		HP維持費	45,000
		事務費・運営費	200,000
		通信費	60,000
		予備費	100,000
		繰越金	1,149,653
合 計	2,634,653	合 計	2,634,653

「編集後記」

コンピューターを駆使する石橋さん、施工方法にこだわる海野さん、インターナショナルな活動の椎橋さん、私小説のような作り手の松村さん、一般紙でも注目の高安さんと、多様な価値観の多様さを実感しました。そしてこれが、現在の建築デザイン界の状況そのものだと思います。

(広谷 純弘hiro@archivision.co.jp)

築理會報2003春号
2003年3月発行 Vol.32

発行所 : 東京都府中市神楽坂1-3
東京理科大学工学部I・II部建築学科
築理會事務局 03-3260-4271(内3293)
03-3235-6897(FAX)

編集長 : 広谷 純弘
編集委員 : 森清、伊藤学、伊谷峰、安室功、千田猛、諸岡伸幸、
中川信浩、平賀一浩、大野紋子、東有紀
印刷発送 : グローバルシステム株式会社

平成15年会費納入のお願い

現在、平成15年度の会費の納入をお願いしております。同封の振込用紙にて、お振り込み下さい。今後のさらなる築理會発展のため、多くの方のご協力をお願いします。

年会費 3,500円
加入者名 築理會
口座番号 00110-5-171952

募集します!

会報委員会では、築理會報の各コーナーへの記事を募集しています。どんな些細な情報でも首を長くしてお待ちしております。また、建築にこだわらず、おいしい料理の作り方や、うまいラーメン屋情報、あなたの楽しい旅行記、その他の記事・情報、また、はみだしチラシにもどんどんお寄せください。築理會あてFAX若しくは電子メールにてお知らせください。

データ確認カード返送のお願い

住所、職場、部署等に変更のございます方は、下記データ確認カードにご記入の上、築理會事務局までご返送下さいませお願い致します。

最新データに基づいた名簿作成、編集のためご協力をお願い致します。

送付先: 築理會事務局 名簿作成委員会

(FAX: 03-3235-6897)

築理會員データ確認カード		記入日: 20 / /	
ふりがな:	(旧姓)	卒業年	年3月
名前:		(期 研)	
		<input type="checkbox"/> I部	<input type="checkbox"/> II部
ふりがな/勤務先:			
ふりがな/部署・役職:		TEL	
		FAX	
電子mail:			
現住所: (〒)			
TEL		FAX	
電子mail:			
現住所以外の安定的な連絡先,具体的な連絡方法及びTEL:			
所属学会			
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
通信欄			

お手数ですが拡大コピーをしてFAXにてお送りください。